

2372 【疋】 疋部 1画 総画 4画 国字

〔読み〕 カク まろいふせり おしまろわす ひきたす ひきたる ふしわずらう まろう ひきた
おす かたす ほのめく すべる おしふせ

〔解説〕 『二卷本世俗字類抄』に「マロヒフセリ」、『永禄八年写二卷本色葉字類抄』・『前田本色葉字類抄』・『黒川本色葉字類抄』に「ヲシマロハス」、『天文本字鏡鈔』・『永正本字鏡抄』・『龍谷大学本字鏡集』・『寛元本字鏡集』に「カク ヒキタス フシワツラフ マロフ」、『応永本字鏡集』に「カク ヒキタス ヒキタル フシワツラフ マロフ」、『篇目次第』に「カク反 ヒキタフス フシハツラフ マロフ 无」、『音訓篇立』に「ヤウ音 マロフ カタス ホノメク フシワツラフ」、『米沢文庫本倭玉篇』に「カク ウシフス マロフ フシワツラフ」、『運歩色葉集』に「マルフ」、『弘治二年本節用集』に「ヲシマロハス ヲシフス」また「マルフ」、『惠空編節用集大全』に「疋 辻 おしころバす」、『合類節用集』に「疋 ヲシマロハス 字未詳」、『書言字考節用集』に「コロブ」、『和字正俗通』に「スヘル マロフ」、『瑠玉集』に「一之疋(ヒツツラバ コレ ヲシフセ)」とある。『大塔物語』に「タフシ」とフリガナされている。音注があるものが多いが、『中華字海』などがない。『惠空編節用集大全』は、行書体とそれを楷書化して示す索引別冊の字から判断して上の字形としたが、楷書体の方は、「疋 辻」の字形である。「疋」・「辻」参照。

2373 【疋】 疋部 1画 総画 5画 国字

〔読み〕 すべり おしまろわす

〔解説〕 疋谷(いったに)は徳島県勝浦郡勝浦町の地名、疋石(すべりいし)は岐阜県山県郡美山町の地名。『合類節用集』に「ヲシマロハス 字未詳」、『譬喩盡』に「疋日(まるをにち)」とある。「疋」参照。

2374 【疋】 疋部 1画 総画 4画 国字

〔読み〕 おしたつ おしまろばす おしふす

〔解説〕 『永禄八年写二卷本色葉字類抄』・『前田本色葉字類抄』・『黒川本色葉字類抄』に「ヲシタツ」、『弘治二年本節用集』に「ヲシマロハス ヲシフス」、『運歩色葉集』に「ヲシタツル」、『米沢文庫本倭玉篇』に「ヲシタツ タチ」とある。「おしたつ」と「おしまろばす・おしふす」では、真反対に近い意味である。字形からすると、前者の方がふさわしい。『弘治二年本節用集』は、「辻」と混乱しているものか。「辻」・「辻」参照。

2375 【疋】 疋部 1画 総画 4画 国字

〔読み〕 おしたつ

〔解説〕 『音訓篇立』に「ヲシタツ」とある。「辻」・「辻」参照。

2376 【疋】 疋部 2画 総画 5画 国字

〔読み〕 こもる せむ こむる こむ はしばみ こみいる たてこもる こもり ひなさき はけき
すまいのこのみち すいもの こみち はてき

〔解説〕 『観智院本類聚名義抄』・『天文本字鏡鈔』・『永正本字鏡抄』・『龍谷大学本字鏡集』・『寛元本字鏡集』・『応永本字鏡集』・『白河本字鏡集』に「コモル セム」、『鎮国守国神社本類聚名義抄』に「コモル コムル セム」、『永禄八年写二卷本色葉字類抄』に「コム」また「端込ハシハミ」、『前田本色葉字類抄』に「端込 ハシハメ 扉一ホ」、『易林本小山板節用集』に「端込 ハシハミ」また「込入 コミイル」、『運歩色葉集』に「コムル 込入 コミイル」また「夜込 ヨコミ」、『温故知新書』に「タテコモル」、『篇目次第』に「コム 无」、『音訓篇立』に「コム コモレリ

セム コモル」、『米沢文庫本倭玉篇』に「コモリ ヒナサキ ハケキ スマイノコノミチ」、『合類節用集』に「コム又扌同並字未詳」、『書言字考節用集』に「コム 本朝ノ俗字 入ノ字ヲ用宜」、『法華三大部難字記』に「ヒナサキ コモリ スイモノ コミチ ハテキ」、『異體字辨』・『同文通考』・『和字正俗通』に「コム」とある。『天治本新撰字鏡』にもあるが、注文がない。「しんにょう」は、三画のことが多いが、『合類節用集』・『書言字考節用集』・『異體字辨』・『和字正俗通』は四画である。『中華字海』にあるが典拠がなく、新しい文字と考えられ、国字であることは間違いないであろう。「込」・「馱」参照。

2377 **込** 辵部 2画 総画 6画 国字

〔読み〕 こむ

〔解説〕 『合類節用集』に「コム又扌同並字未詳」、『書言字考節用集』に「コム 本朝ノ俗字 入ノ字ヲ用宜」、『異體字辨』・『和字正俗通』に「コム」とある。「込」・「馱」参照。

2378 **辻** 辵部 2画 総画 5画 国字

〔読み〕 シュウ つむじ つじ とらう とし とも

〔解説〕 『観智院本類聚名義抄』・『鎮国守国神社本類聚名義抄』・『永禄八年写二卷本色葉字類抄』に「ツムシ」、『黒川本色葉字類抄』に「十字 ツムシ東西南北相分之道其中央似十字也 辻 同ツムシ俗用也未詳」、『大東急記念文庫本伊呂波字類抄』(四卷)に「十字 ツシ東西南北分道其中央也 辻 同俗用也」、『天文本字鏡鈔』・『龍谷大学本字鏡集』・『寛元本字鏡集』・『応永本字鏡集』・『白河本字鏡集』に「シフ ツシ」、『明応五年本節用集』・『易林本小山板節用集』・『和字正俗通』に「ツジ」、『篇目次第』に「シフ反 ツシ 无」、『二卷本世俗字類抄』・『増刊下学集』・『拾篇目集』に「ツシ」、『撮壤集』に「辻子 ツシ」、『運歩色葉集』に「ツシ」・「辻子 ツジ」・「辻固 ツジガタメ」また「裡辻 ウラツイジ」、『大谷大学本節用集』に「ツジ 路」また「辻固 ツジガタメ」、『合類節用集』に「辻子 ツシ」、『音訓篇立』に「シウ音 ツシ ツムシ」、『玉篇略』に「シウ トラウ ツシ トシ トモ」、『玉篇要略集』に「ツシ シウ」、『惠空編節用集大全』に「つぢ」、『異體字辨』に「ツヂ」、『同文通考』に「ツジ 街ナリ」とある。『合類節用集』・『異體字辨』・『同文通考』・『和字正俗通』は4画の「しんにょう」である。『拾篇目集』には、「辻」のほか「しんにょう」に「一」から「九」までの数字を組み合わせた文字が載っているが、「九」以外は『中華字海』などにはない。なお、「辻」が、拡張新字体であるかのごとく書いてある書籍もあるが、古くからある字形は「辻」であり、「辻」は、江戸時代後期になるまであまり使われていない。中国においても「しんにょう」が4画に書かれることが多くなったのは、『康熙字典』以降のことである。これは、唐の時代の『干祿字書』以来、「しんにょう」は3画に書かれてきた歴史があるからであり、例外は、『字彙・字彙補』ぐらいのものである。「十」の縦棒を左にはねるものも多いが、区別しなかった。「辻棲」は、国字同士で構成された珍しい熟語。「仑」・「辻」参照。

2379 **辻** 辵部 2画 総画 6画 国字

〔読み〕 つじ

〔解説〕 漢和辞典はこの字形である。『合類節用集』に「辻子 ツシ」、『異體字辨』に「ツヂ」、『同文通考』に「ツジ 街ナリ」、『和字正俗通』に「ツジ」とある。「辻棲」は、国字同士で構成された珍しい熟語。「仑」・「辻」参照。

2380 **コ** 辵部 2画 総画 5画 国字

〔読み〕 はねろをる とらふる さいわい ころぶ

〔解説〕 『二卷本世俗字類抄』に「ハ子ロヲル」、『拾篇目集』に「トラフル サイハイ」とある。『いろは字』に「コロブ」とある(山岸徳平氏による翻字)。

2381 **辻** 辵部 2 画 総画 5 画 国字

〔読み〕 よろとく ひす むつれす

〔解説〕 『二卷本世俗字類抄』に「ヨロトク」、『拾篇目集』に「ヒス ムツレス」とある。

2382 **辻** 辵部 2 画 総画 5 画 国字

〔読み〕 ふれてまし よこはく はらたつ

〔解説〕 『二卷本世俗字類抄』に「フレテマシ」、『拾篇目集』に「ヨコハク ハラタツ」とある。

2383 **辻** 辵部 2 画 総画 5 画 「かたとせは・たおれふす・あしたち」は、国訓

〔読み〕 かたとせは たおれふす あしたち

〔解説〕 『二卷本世俗字類抄』に「カトセハ」、『拾篇目集』に「タフレフス アシタチ」とある。『中華字海』が『玉篇』を典拠に「同軌」とする。「カトセハ タフレフス アシタチ」は、国訓と考えられる。『篇目次第』に「軌」の古文とある。

2384 **辻** 辵部 2 画 総画 5 画

〔読み〕 おしまろばす おしたつ

〔解説〕 『永禄八年写二卷本色葉字類抄』・『前田本色葉字類抄』・『黒川本色葉字類抄』に「ヲシマロハス」、『惠空編節用集大全』に「おしたつ」また「辻辻 おしころばす」とある。『龍谷大学本字鏡集』には、未詳とのみある。『中華字海』が『篇海』を典拠に「音銛義未詳」とする。国字ではない。『惠空編節用集大全』の前者の字形は、楷書体では、二点しんのようにになっている。後者の字形については、「辻」に簡単に触れておいたので、参照いただきたい。「辻」・「辻」参照。

2385 **辻** 辵部 3 画 総画 6 画 国字

〔読み〕 いさる いなる しのびやかに

〔解説〕 『二卷本世俗字類抄』に「井サル」、『拾篇目集』に「井ナル シノヒヤカニ」とある。

2386 **辻** 辵部 3 画 総画 6 画 国字

〔読み〕 はさ

〔解説〕 苗字に辻田(はさだ)がある。

2387 **辻** 辵部 3 画 総画 6 画 国字

〔読み〕 シ おれはきあけ おれ はぎあげ おし そでまくり うでまくり たまだすき

〔解説〕 『観智院本類聚名義抄』に「フレハキアケ」、『鎮国守国神社本類聚名義抄』に「フレハキアケ」、『前田本色葉字類抄』に「ハキアケ」、『黒川本色葉字類抄』に「ハギアゲ」、『天文本字鏡鈔』・『永正本字鏡抄』・『龍谷大学本字鏡集』に「ヲシ ハキアケ ソテマクリ」、『応永本字鏡集』・『白河本字鏡集』に「シ フレ ハキアケ ソテマクリ」、『音訓篇立』に「ハキアケ フレ」、『篇目次第』に「ハキアケ ソテマクリ 无」、『玉篇略』に「ウテマクリ」、『惠空編節用集大全』に「たまだすき」、『和字正俗通』(妄制)に「タマタスキ」とある。『和字正俗通』は4画のしんによる。『寛元本字鏡集』は「上」が「止」になっているが、この字は中国にもある。字喃及び古壮字に「上」の意であるが国字であることには間違いはないだろう。

2388 **辻** 辵部 3 画 総画 6 画 国字(元、「匹」の異体字)

〔読み〕 ヒツ たひく まし こしからみ こしからむ たぐい たがいに したがう たかし のかる あしからみ

〔解説〕『観智院本類聚名義抄』に「タクヒ マシ コシカラミ」、『永禄八年写二卷本色葉字類抄』・『前田本色葉字類抄』・『黒川本色葉字類抄』・『法華三大部難字記』に「コシカラム」、『天文本字鏡鈔』・『永正本字鏡抄』・『龍谷大学本字鏡集』・『応永本字鏡集』・『白河本字鏡集』に「タクヒ コシカラミ マシ」、『玉篇略』に「ヒツ タクイ タカイニ シタカウ タカシ ノカル」、『拾篇目集』に「ヒン反 タクヒ」、『音訓篇立』に「ヒン音 タクヒ マヒ コシカラム」、『篇目次第』に「アシカラミ」とある。『応永本字鏡集』・『白河本字鏡集』には、「タクヒ コシカラミ マシ」とあるほか、「_レにス」のような形で「ヒツ 匹同 タクヒ ナラ」とある。この字形は、「匹」が「迂」になる直前の字形をあらわしていて典拠として重要と思われる。『中華字海』に「音匹。義未詳」とある。『漢語大字典』は『字彙補』などから「音匹」と引くが四画のしんのように作る。『楷法辨體』に「匹」の異体字のひとつとしてある。「匹」の異体字としてできたものが、中国では義を失い、日本では「辻」の影響を受けて訓義を増やしたものか。字喃及び古壮字に「下」の意であるが関係はないものと考えられる。

2389 **【辻】** 辵部 3 画 総画 6 画 国字

〔読み〕 さわる

〔解説〕『天文本字鏡鈔』・『永正本字鏡抄』・『龍谷大学本字鏡集』・『応永本字鏡集』・『白河本字鏡集』に「サハル」とある。

2390 **【返】** 辵部 3 画 総画 6 画 国字

〔読み〕 そり

〔解説〕 苗字に返町(そりまち)がある(『苗字の謎』(珍姓神奈川県))。長野市大字古野に字返町(そりまち)がある。「返」参照。

2391 **【返】** 辵部 4 画 総画 7 画 国字

〔読み〕 そり

〔解説〕 苗字に返町(そりまち)がある。「返」参照。

2392 **【沖】** 辵部 4 画 総画 8 画

〔読み〕 とて とても さても

〔解説〕 苗字に沖野(とての)がある。『異體字辨』に「トテモ」とあり、『国字の字典』が国字とする。『中華字海』が『篇海』を典拠に「音打義未詳」とする。『漢韓最新理想玉篇』は日本の字とするが、国字とはいえない。『運歩色葉集』に「トテモ」また「サテモ」、『天正十七年本節用集』・『弘治二年本節用集』・『永禄二年本節用集』・『堯空本節用集』・『両足院本節用集』・『同文通考』・『和字正俗通』に「トテモ」、『惠空編節用集大全』に「とても」とある。『運歩色葉集』・『天正十七年本節用集』・『弘治二年本節用集』・『永禄二年本節用集』・『堯空本節用集』は、3画のしんによろであり、『両足院本節用集』は、より崩れた字形である。

2393 **【辻】** 辵部 4 画 総画 7 画 国字

〔読み〕 さかさまにたつ やさし あたる

〔解説〕『二卷本世俗字類抄』に「サカサマニタツ」、『拾篇目集』に「サカサマニタツ ヤサシアタル」とある。

2394 **【辻】** 辵部 4 画 総画 7 画 「迹」の異体字

〔読み〕 ロク なかし みち あと のちにを つ のけさまにたり しかも みつ

〔解説〕『天文本字鏡鈔』・『龍谷大学本字鏡集』・『寛元本字鏡集』・『応永本字鏡集』・『白河本字鏡集』に「ロク ナカシ ミチ アト」、『二卷本世俗字類抄』に「ノチニヲツ」、『篇目次第』に「ロ

ク反 ナカシ ミチ アト 无」、『拾篇目集』に「ノケサマニタリ シカモ ミツ」、『音訓篇立』に「ミチ カナシ アト」、『米沢文庫本倭玉篇』に「ミチ ナカシ アト」、『法華三大部難字記』に「ナカシ ミチ アト」とある。国字ではなく、「迹」の異体字であると考えられる。

2395 **迂** 辵部 4 画 総画 7 画 「めくる」は、国訓
〔読み〕 めくる
〔解説〕 『音訓篇立』に「メクル」とある。『中華字海』が『酉陽雜俎』を典拠に「音未詳。鬼名」とする。国字ではない。「迕」参照。

2396 **送** 辵部 4 画 総画 7 画
〔読み〕 うちかえす
〔解説〕 『拾篇目集』に「ウチカヘス」とある。

2397 **廻** 辵部 5 画 総画 8 画 「廻」の誤字か
〔読み〕 くるめく さもあらばあれ
〔解説〕 『二卷本世俗字類抄』に「クルメク」、『拾篇目集』に「クルメク サモアラハアレ」とある。「クルメク」は、「くるくる回る」意である。国字ではなく、「廻」の誤字か。

2398 **迕** 辵部 5 画 総画 8 画 国字
〔読み〕 あと
〔解説〕 苗字に迕見(あとみ)がある。「迹(あと)」に関係あるか。

2399 **週** 辵部 5 画 総画 8 画 国字
〔読み〕 むかう
〔解説〕 『観智院本類聚名義抄』・『鎮国守国神社本類聚名義抄』・『天文本字鏡鈔』・『永正本字鏡抄』・『龍谷大学本字鏡集』・『寛元本字鏡集』・『白河本字鏡集』に「ムカフ」とある。

2400 **迕** 辵部 5 画 総画 8 画 国字
〔読み〕 めくる
〔解説〕 『音訓篇立』に「メクル」とある。「迂」参照。

2401 **法** 辵部 5 画 総画 8 画
〔読み〕 いぬ
〔解説〕 『大字源国字一覧』に「いぬ」とある。『漢語大字典』が『字彙補』を典拠に「音義未詳」とし、『韓国固有漢字研究』には「柴束之大者」とある。国字ではないだろう。

2402 **逵** 辵部 6 画 総画 9 画 国字
〔読み〕 はしる ととむ
〔解説〕 『観智院本類聚名義抄』・『鎮国守国神社本類聚名義抄』・『天文本字鏡鈔』・『永正本字鏡抄』・『龍谷大学本字鏡集』・『寛元本字鏡集』・『応永本字鏡集』・『音訓篇立』に「ハシルトム」とある。

2403 **遊** 辵部 6 画 総画 10 画 国字
〔読み〕 おもわく
〔解説〕 『国字の字典』が『歌舞伎評判記集成』から「芝居(しばい)の遊(おもわく)」と引き「思惑(おもわく)」の意の国字とする。

- 2404 **【逖】** 辵部 6 画 総画 9 画 国字
〔読み〕 ほのかなり
〔解説〕 『観智院本類聚名義抄』・『鎮国守国神社本類聚名義抄』・『天文本字鏡鈔』・『永正本字鏡抄』・『龍谷大学本字鏡集』・『寛元本字鏡集』・『白河本字鏡集』・『音訓篇立』に「ホノカナリ」とある。「恟」・「眇」・「騁」・「鴟」参照。
- 2405 **【逖】** 辵部 7 画 総画 11 画 国字
〔読み〕 さこ
〔解説〕 岡山県英田郡作東町大字梶原に字逖(さこ)がある。(解説途中)
- 2406 **【逖】** 辵部 7 画 総画 10 画 国字
〔読み〕 むく のかる すく
〔解説〕 『観智院本類聚名義抄』に「逖逖 ヌク ノカル」、『鎮国守国神社本類聚名義抄』に「ヌク ノカル」、『天文本字鏡鈔』・『永正本字鏡抄』・『龍谷大学本字鏡集』・『寛元本字鏡集』・『白河本字鏡集』に「スク ノカル」とある。「逖」参照。
- 2407 **【逖】** 辵部 7 画 総画 11 画 国字
〔読み〕 みき
〔解説〕 『国字の字典』が『歌舞伎評判記集成』から「市原酒逖(みき)の丞にあいて」と引き国字とする。
- 2408 **【逖】** 辵部 7 画 総画 11 画 国字
〔読み〕 しかへむ
〔解説〕 『音訓篇立』に「シカヘム」とある。
- 2409 **【逖】** 辵部 7 画 総画 10 画 国字
〔読み〕 こそ たまたま
〔解説〕 『温故知新書』・『拾篇目集』に「コソ」、『音訓篇立』に「コソ タマタマ」とある。昨年などの意の国字か。
- 2410 **【逖】** 辵部 7 画 総画 10 画 国字
〔読み〕 しりぞく
〔解説〕 『鎮国守国神社本類聚名義抄』・『天文本字鏡鈔』・『永正本字鏡抄』・『龍谷大学本字鏡集』・『寛元本字鏡集』に「シリソク」とある。
- 2411 **【逖】** 辵部 7 画 総画 10 画 国字
〔読み〕 ソウ はま
〔解説〕 『天文本字鏡鈔』・『永正本字鏡抄』・『龍谷大学本字鏡集』・『寛元本字鏡集』・『白河本字鏡集』に「ハマ サフ」とある。
- 2412 **【逖】** 辵部 7 画 総画 10 画 「迹」の誤字か
〔読み〕 あと
〔解説〕 『永禄八年写二卷本色葉字類抄』に「アト」とある。『鎮国守国神社本類聚名義抄』に「遺迹 フモハカル」、『合類節用集』に「遺迹 フモヒヤル」とある。『寛元本字鏡集』にもあるが注文がない。「迹(あと)」の誤字か。

- 2413 **【法】** 辵部 8 画 総画 11 画 国字
〔読み〕 おとし
〔解説〕 『音訓篇立』・『拾篇目集』に「ヲトシ」とある。一昨年(おとし)の意の国字か。
- 2414 **【逼】** 辵部 8 画 総画 11 画 国字あるいは「逼」の誤字
〔読み〕 セン せむ
〔解説〕 『観智院本類聚名義抄』・『鎮国守国神社本類聚名義抄』・『天文本字鏡鈔』・『永正本字鏡抄』・『龍谷大学本字鏡集』・『寛元本字鏡集』・『白河本字鏡集』に「セム」、『音訓篇立』に「セン音 セム」とある。国字ではなく、「逼(せむ)」の誤字とも考えられる。
- 2415 **【淡】** 辵部 8 画 総画 11 画
〔読み〕 タン
〔解説〕 『観智院本類聚名義抄』に「淡字」とある。『中華字海』が『龍龕手鑑』を典拠に「音旦義未詳」とする。国字ではない。
- 2416 **【迨】** 辵部 8 画 総画 12 画 国字
〔読み〕 は
〔解説〕 苗字に迨姑射(はこや)がある。
- 2417 **【捺】** 辵部 8 画 総画 11 画 「捺」の異体字か
〔読み〕 ナ
〔解説〕 『観智院本類聚名義抄』に「俗捺字」とある。『中華字海』が『朝鮮本龍龕手鑑』を典拠に「音耐義未詳」とする。国字ではない。
- 2418 **【控】** 辵部 8 画 総画 11 画 国字
〔読み〕 おとれる
〔解説〕 『米沢文庫本倭玉篇』に「ヲトレル」とある。「劣(おとる)」意の国字か。
- 2419 **【逦】** 辵部 8 画 総画 11 画 国字
〔読み〕 みち
〔解説〕 『天文本字鏡鈔』・『永正本字鏡抄』・『龍谷大学本字鏡集』・『寛元本字鏡集』に「ミチ」、『篇目次第』に「ミチ 无」とある。信じ奉って進む道の意で、「道・奉」の省画合字か。
- 2420 **【尙】** 辵部 8 画 総画 11 画 国字
〔読み〕 みち
〔解説〕 『音訓篇立』に「ミチ」とある。大事にし尙ぶ(たつとぶ)道の意で、「道・尙」の省画合字か。
- 2421 **【迨】** 辵部 8 画 総画 11 画 国字
〔読み〕 さいつとし
〔解説〕 『永禄八年写二卷本色葉字類抄』に「サイツトシ」とある。『前田本色葉字類抄』・『黒川本色葉字類抄』にはない。「さいつとし」は、「先(さき)つとし」の転。「先(さき)つとし」は、何年か前に過ぎ去った年、先年のこと。「一昨々年・一昨昨年(さきおとし)」の意の「さいととし」とは、異なる。「遄」参照。

2422 **【𨔵】** 辵部 8 画 総画 11 画

2423 **【適】** 辵部 9 画 総画 12 画 国字

〔読み〕 ナン レン キ いかつらけふ あはれふ およぶ いたる あわれなり かかへ もの
のあわれ かなしむ あっばれ

〔解説〕 『永禄八年写二卷本色葉字類抄』に「アフレ」、『前田本色葉字類抄』・『黒川本色葉字類抄』に「アフル アフレタリ」、『天文本字鏡鈔』・『永正本字鏡抄』・『龍谷大学本字鏡集』・『寛元本字鏡集』・『応永本字鏡集』・『白河本字鏡集』に「イカツラケフ アハレフ」、『玉篇略』に「ナン オヨフ イタル」、『篇目次第』に「アハレフ 无」、『音訓篇立』に「レム音 アハレナリ アハレフ カハヘ モハアハレ」、『米沢文庫本倭玉篇』に「キ アハレム カナシム」、『國字考』に「アツハレ(中略)意は天晴なり(下略)」とある。『色葉字類抄』各本は、「アハレ」あるいは「アワレ」の誤りか。漢和辞典には、「あっばれ」とのみあることが多いが、古辞書の注文からすると「あっばれ」の意は新しく、「あはれ」の意が元であったようだ。『小学館古語大辞典』によると、「あっばれ」自体、「あはれ」を促音化して出来たもので、「あはれ」の意味の一部を表現する語として成立したものである。『米沢文庫本倭玉篇』に「カナシム」とあるのもそのことが影響しているものであろう。「あっばれ」の意のみから字源解釈すると字源俗解になりかねないということである。「しんにょう」は、三画のことが多いが、『異體字辨』・『同文通考』は、四画である。「適」参照。

2424 **【適】** 辵部 9 画 総画 13 画 国字

〔読み〕 あっばれ

〔解説〕 『異體字辨』に「アツハレ」、『同文通考』に「アツハレ 語ノ詞讀テ天晴(アツハレ)ニ作」とある。「適」参照。

2425 **【逡】** 辵部 9 画 総画 12 画 国字

〔読み〕 たぶらかす あざむく

〔解説〕 『玉篇略』に「タフラカス アサムク」とある。『鎮国守国神社本類聚名義抄』・『天文本字鏡鈔』・『永正本字鏡抄』・『龍谷大学本字鏡集』・『寛元本字鏡集』には「未詳」とのみあり、『白河本字鏡集』には、注文がない。信用している者を、欺きたぶらかす意で、「迂(あざむく) + 信」の省画合字か。

2426 **【𨔵】** 辵部 9 画 総画 12 画 国字

〔読み〕 しめ

〔解説〕 苗字に𨔵野(しめの)がある。「しめ」は、神のいる地域。また神域への立ち入りを禁じるしるしで、「注連」とも書く。「連 + 神」の省画合字で、「しめ」の意を表した国字か。『苗字8万よみかた辞典』は、しんにょうを「辵」にする。『漢字源改訂第四版』は、親字のしんにょうを「辵」にした上で、「𨔵」を異体字とする。長崎県壱岐市郷ノ浦町東触に𨔵ノ尾(しめのお)があるが、Windows XP までのパソコンで表示できないせい、インターネット上では「しめノ尾」と表記されていることが多い。『日本の漢字』にある「𨔵ノ元(しめのもと)」は、インターネット上では、発見できない。

2427 **【逡】** 辵部 9 画 総画 12 画 「匪」の異体字

〔読み〕 ヒ ならず あらず

〔解説〕 『音訓篇立』に「ヒ音 ナラス アラス」、『篇目次第』に「ナラス 无」とある。「匪」の異体字と考えられるが、『中華字海』などない。

2428 **𨮑** 辵部 9 画 総画 12 画 国字

〔読み〕 ぬく のがる

〔解説〕 『観智院本類聚名義抄』に「𨮑𨮑 スク ノカル」とある。「逃る(のがる)」などの意の国字か。「𨮑」参照。

2429 **𨮒** 辵部 9 画 総画 12 画 国字

〔読み〕 すかす

〔解説〕 『天文本字鏡鈔』・『永正本字鏡抄』・『龍谷大学本字鏡集』・『寛元本字鏡集』・『白河本字鏡集』に「スカス」、『篇目次第』に「スカス 无」とある。

2430 **𨮓** 辵部 9 画 総画 12 画 「いそぐ・よける」は、国訓

〔読み〕 いそぐ よける

〔解説〕 『観智院本類聚名義抄』・『鎮国守国神社本類聚名義抄』・『天文本字鏡鈔』・『永正本字鏡抄』・『龍谷大学本字鏡集』・『白河本字鏡集』に「イソク」、『音訓篇立』に「ヨケル イソク」とある。『中華字海』が『西陽雜俎』を典拠に「音未詳。旧時迷信説法。壬戌日鬼叫𨮓」とする。「いそぐ・よける」は、国訓と考えられる。

2431 **𨮔** 辵部 9 画 総画 12 画 国字

〔読み〕 はるか すく とおす とおる とおし すぐ さぐる

〔解説〕 『観智院本類聚名義抄』に「ハルカ スク トホス」、『鎮国守国神社本類聚名義抄』に「爪ク ハルカ トヲル」、『天文本字鏡鈔』に「ハルカ トヲシ スク」、『白河本字鏡集』に「ハルカ トヲシ スグ」、『龍谷大学本字鏡集』・『寛元本字鏡集』に「ハルカ トホシ スク」、『温故知新書』に「サクル」とある。『白河本字鏡集』の注文のうち、「スグ」の「グ」の濁点は、正確には、「ク」の左側についている。

2432 **𨮕** 辵部 9 画 総画 12 画 「過」の異体字か

〔読み〕 よきり

〔解説〕 『篇目次第』に「ヨキリ 无」とある。音は確認できないが、「過(よきり)」の意で、「過」の異体字ではないかと考えられる。

2433 **𨮖** 辵部 9 画 総画 12 画 国字

〔読み〕 みる

〔解説〕 『米沢文庫本倭玉篇』に「ミル」とある。

2434 **𨮗** 辵部 9 画 総画 12 画 国字

〔読み〕 たかし かたし

〔解説〕 『天文本字鏡鈔』・『龍谷大学本字鏡集』・『応永本字鏡集』・『白河本字鏡集』に「タカシ」、『永正本字鏡抄』・『寛元本字鏡集』・『音訓篇立』に「カタシ」・『篇目次第』に「カタシ 无」とある。

2435 **𨮘** 辵部 9 画 総画 12 画 「洒」の誤字

〔読み〕 すなわち

〔解説〕 『音訓篇立』に「スナハチ」とある。国字ではなく、「洒(すなわち)」の誤字にすぎないと考えられる。

2436 **【兹】** 辵部 9 画 総画 12 画 国字

〔読み〕 めくる

〔解説〕 『音訓篇立』に「メクル」とある。「捲(めくる)」意の国字か。

2437 **【逦】** 辵部 9 画 総画 12 画 国字

〔読み〕 はしる

〔解説〕 『篇目次第』に「ハシル 无」とある。

2438 **【漚】** 辵部 11 画 総画 14 画 国字

〔読み〕 あふれる こぼる

〔解説〕 『篇目次第』に「アフレタリ コホル 无」とある。「溢れる」などの意の国字か。

2439 **【焯】** 辵部 12 画 総画 15 画 国字

〔読み〕 すみやか すみやかに とし ととし

〔解説〕 『観智院本類聚名義抄』・『鎮国守国神社本類聚名義抄』に「スミヤカニ トシ」、『永禄八年写二卷本色葉字類抄』に「スミヤカナリ」、『天文本字鏡鈔』・『龍谷大学本字鏡集』・『寛元本字鏡集』に「トシ スミヤカ」、『白河本字鏡集』に「トハシ スミヤカ」、『篇目次第』に「スミヤカ 无」とある。「速やか」の意の国字か。

2440 **【滄】** 辵部 12 画 総画 15 画 国字

〔読み〕 すすむ

〔解説〕 『観智院本類聚名義抄』・『天文本字鏡鈔』・『永正本字鏡抄』・『龍谷大学本字鏡集』・『寛元本字鏡集』に「スハム」とある。

2441 **【還】** 辵部 12 画 総画 15 画

〔読み〕 キョウ たつむ 「還迹」二字で、「おもはかる」

〔解説〕 『観智院本類聚名義抄』に「還迹 フモハカル」、『鎮国守国神社本類聚名義抄』に「還迹 フモハカル」、『玉篇略』に「キヤウ タツム」、『篇目次第』に「キヤウ反 无」、『合類節用集』に「還迹 フモヒヤル」とある。『天文本字鏡鈔』・『寛元本字鏡集』・『白河本字鏡集』にもあるが注文がない。「還」参照。(解説途中)

2442 **【還】** 辵部 12 画 総画 16 画

〔読み〕 キョウ たつむ 「還迹」二字で、「おもはかる」 「還迹」二字で、「おもいやる」

〔解説〕 『鎮国守国神社本類聚名義抄』に「還迹 フモハカル」、『玉篇略』に「キヤウ タツム」、『篇目次第』に「キヤウ反 无」、『合類節用集』に「還迹 フモヒヤル」、『譬喩盡』に「還迹(ぎやうしやく) 太平記ニ出 思遣 免玉へ々々也」とある。「還」参照。

2443 **【篷】** 辵部 12 画 総画 15 画 国字

〔読み〕 ふなやかた

〔解説〕 『永正本字鏡抄』・『龍谷大学本字鏡集』に「フナヤカタ」とある。

2444 **【漕】** 辵部 13 画 総画 16 画 国字

〔読み〕 さおとし さいとし さきおとし

〔解説〕 『温故知新書』・『拾篇目集』に「サフトハシ」、『音訓篇立』に「サイトハシ」とある。「さをととし・さいととし」は「一昨々年・一昨昨年(さきおとし)」のこと。先年の意の「さいつとし」とは、

異なる。「逾」参照。

- 2445 **【濫】** 辵部 13 画 総画 16 画 国字
〔読み〕 いかそ
〔解説〕 『天文本字鏡鈔』・『永正本字鏡抄』に「イカソ」、『篇目次第』に「イカソ 无」とある。「濫」参照。
- 2446 **【濫】** 辵部 13 画 総画 16 画 国字
〔読み〕 いかそ
〔解説〕 『龍谷大学本字鏡集』・『寛元本字鏡集』に、「イカソ」とある。「濫」参照。
- 2447 **【當】** 辵部 13 画 総画 16 画 国字
〔読み〕 さても
〔解説〕 『饅頭屋本節用集』に「サテモ 偕 同」とある。「扱」参照。
- 2448 **【瀟】** 辵部 14 画 総画 17 画 国字
〔読み〕 スイ
〔解説〕 林美一著『江戸艶本へようこそ』の艶本一覧に「風俗瀟妓(すいこ)傳」とある。
- 2449 **【遷】** 辵部 16 画 総画 19 画 国字
〔読み〕 いろう わたる わする のこす
〔解説〕 『龍谷大学本字鏡集』に「イロフ ワタル ノコス」、『寛元本字鏡集』に「イロフ ワスル ノコス」、『篇目次第』に「イロフ ノコス ハスル 无」とある。
- 2450 **【遷】** 辵部 18 画 総画 21 画 「遷」の異体字か
〔読み〕 かたほ
〔解説〕 『和字正俗通』に「カタホ」とある。『角川古語大辞典』に「かたほ【偏】不完全なさま。未熟で欠陥のあるさま。「まほ」の対。「遷カタホナリ」〔前田本色葉字類抄〕」とある。「遷」のくずれた字を楷書化した異体字にすぎないと考えられる。「遷」は、『中華字海』にある。「纈」参照。
- 2451 **【瀨】** 辵部 19 画 総画 22 画 国字
〔読み〕 おこなう
〔解説〕 『観智院本類聚名義抄』・『龍谷大学本字鏡集』に「ヲコナフ」とある。
- 2452 **【瀨】** 辵部 22 画 総画 26 画 国字
〔読み〕 ら
〔解説〕 『新潮日本語漢字辞典』に「ラ 国字 万葉仮名の「ら」。」とある。
- 2453 **【瀨】** 辵部 23 画 総画 27 画 国字
〔読み〕 ら
〔解説〕 『新潮日本語漢字辞典』に「瀨」の正字」とある。
- 2454 **【瀨】** 辵部 27 画 総画 30 画 国字
〔読み〕 いさてらへ
〔解説〕 『天文本字鏡鈔』・『永正本字鏡抄』・『龍谷大学本字鏡集』・『寛元本字鏡集』に「イサテラへ」、『応永本字鏡集』・『白河本字鏡集』に「イサテウへ」、『篇目次第』に「イサテラへ 无」、

『米沢文庫本倭玉篇』に南の下二字を省略形にした字形で「クサタヘ テラス」とある。『白河本字鏡集』は「イサテラヘ」の誤りか。

2455 **𨮑** 辵部 35 画 総画 38 画 国字

〔読み〕 はしだて

〔解説〕 『運歩色葉集』に「ハシタテ 丹後天之一」とある。砂州の上に続く、延長約 3km の松林、日本三景の一つ、「天橋立(あまのはしだて)」のこと。巾の狭い砂州の上にできた、さんさんと太陽の降り注ぐ、風光明媚な地の意で作った国字か。

2456 **𨮒** 辵部 39 画 総画 42 画

〔解説〕 『篇目次第』に「人是切 无」とある。仏教か道教系の佚存文字(中国などに元々存在したが、その後失われた文字)か。国字ではないと考えられる。